

# 人口センサスに基づく中国の少数民族の比較研究

－ 全 56 民族の比較と考察 －★

雲南大学発展研究院教授 呂 昭河  
 雲南大学発展研究院副教授 晏 月平  
 雲南大学発展研究院副教授 徐 曉勇

## 要 旨

本研究は、中国の「第 6 次人口センサス」を用いて漢族および 55 の少数民族の計 56 民族の民族別比較を行ったものである。ここでは、主成分分析とクラスター分析により、56 民族を人口の現代化の度合いにより 5 つのグループに分類した。そして、この結果より中国における人口の現代化の今後について考察し、都市化の推奨、第 3 次産業の発展、教育体系、文化環境および公共サービスの改善を提言している。

## 1. 少数民族の人口発展状態における民族別比較

前号の分析により、55 の少数民族の人口の現代化過程は明らかに漢族より停滞しているということが判明した。しかし、これは少数民族全体について出された結論であり、当然少数民族内部でも違いが存在する。そこでこの違いを知るためには、民族別に比較研究する必要がある。ここでは、「第 6 次人口センサス（2010 年）」のデータを用いて、主成分分析とクラスター分析でこれらの違いを分析する。

### 1.1 指標の構築

本研究では人口の現代化の指標について、人口増加の現代化、人口素質の現代化および人口構造の現代化の 3 つの観点から指標を採用する。表 1 がその具体的な指標である。

表1 人口現代化の指標

目標	観点	指標
人口現代化総合評価	人口増加の現代化	合計特殊出生率
		出生率
		死亡率
	人口素質の現代化	平均寿命予測
		乳児死亡率
		平均教育年数
	人口構造の現代化	人口性別比
		65 歳以上の人口比率
		人口都市化率
		非農業就業比率

(出所) 筆者作成 (断りのない限り以下同じ)

★本稿は、呂昭河・晏月平・徐曉勇（2013）『民族人口現代化進程的族際比較研究－基于人口普查資料的分析－』雲南大学発展研究院、研究報告 93 の後半部分を翻訳・整理したものである（前半部分は、本誌前号に「人口センサスに基づく中国の少数民族の比較研究－漢族と少数民族－」と題して掲載）。なお、翻訳は坂本博 AGI 主任研究員が行った。

## 1.2 手法とデータ処理

### (1) 手法

#### ①主成分分析

ここでは主成分分析による多変量解析を行う。主成分分析は、多変量をある程度情報を保持しながらより少ない変数に置き換える分析法である。各主成分の固有値から得られる寄与率の累積寄与率からの比率が主成分得点のウェイトとなり、人口現代化指数を示す。具体的な推計方法は、まず人口現代化の各指標のデータから得られる分散共分散行列に対する固有値分解を行い、各主成分の固有値から得られる寄与率、主成分負荷量行列を得る。主成分の個数を決める方法として、寄与率の高いものから選択し、累積寄与率が85%以上に達した時点で選択を終える。そうすることですべての変数の情報をあまり失うことなく、より少ない変数で分析が可能となる。以下により、主成分負荷量行列から各主成分の得点を得ることができる。

$$f_i = \sum_{j=1}^n K_{ij} X_{ij} \quad (i=1, 2, \dots, m) \quad (1)$$

ここで、 $f_i$  は第  $i$  主成分の得点で、 $K_{ij}$  は第  $i$  主成分に対する第  $j$  指標の負荷量である。各主成分の固有値の寄与率の累積寄与率からの比率  $w_i$  が主成分得点のウェイトとなり、人口現代化指数  $F$  は以下のようになる。

$$F = \sum_{i=1}^m w_i f_i \quad (2)$$

#### ②クラスター分析

クラスター分析とは、異なる性質のものが混ざりあっている対象の中から互いに似たものを集めて集団（クラスター）を作り、対象を分類しようとするものである。ここでは56の民族の主成分値を用いてユークリッドの距離を計算し、データ間の相似の程度を計算する。

$$D_{ij} = \sqrt{\sum_{k=1}^n (x_{ik} - x_{jk})^2} \quad (3)$$

ここで、 $x_{ik}$  は第  $i$  民族の第  $k$  主成分の値、 $x_{jk}$  は第  $j$  民族の第  $k$  主成分の値である。距離が小さければ小さいほど、2つの民族の人口発展状態が似ているといえる。本研究はSPSS10のソフトウェアを用いて主成分分析とクラスター分析を行った。

### (2) データの標準化処理

表2は各民族の人口現代化の指標値を示したものである。3つの観点から、10の指標を用いているため、これらの指標の単位が異なり、数字の差も大きい。そのため、データを標準化させる必要がある。

#### ①方向の処理

人口現代化の指標においては3つの方向が考えられる。まず、正方向の指標、つまり数値が

表2 各民族の人口現代化指標値

民族	①*	②	③	④**	⑤**	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
漢族	1.03	8.44	5.60	73.34	22.20	8.84	104.90	9.10	51.87	53.58
モンゴル族	1.01	9.06	4.16	68.55	23.04	9.25	100.58	4.78	46.19	36.50
回族	1.36	11.19	4.47	73.36	26.61	8.16	103.10	7.32	53.50	47.19
チベット族	1.27	10.48	6.24	66.00	41.82	5.37	100.93	5.91	19.72	17.77
ウイグル族	1.99	16.71	5.28	68.14	39.16	8.04	102.53	4.79	22.38	17.41
ミャオ族	1.57	12.24	5.56	66.52	59.97	7.20	106.91	7.15	25.63	29.53
イ族	1.72	13.65	6.01	63.96	54.71	6.52	104.66	5.89	18.88	17.38
チワン族	1.46	11.58	5.47	71.94	34.25	8.17	105.49	8.76	34.37	30.69
ブイ族	1.74	12.96	6.62	63.63	64.75	7.04	102.93	8.13	26.23	30.65
朝鮮族	0.47	3.69	5.64	73.77	10.08	10.32	98.93	11.20	69.39	73.54
満州族	0.86	7.07	4.50	74.77	10.44	9.13	108.34	6.71	43.74	41.52
トン族	1.57	11.93	6.04	67.96	65.15	7.91	110.52	8.73	30.47	36.47
ヤオ族	1.51	11.69	5.15	69.62	41.65	7.71	109.10	6.93	23.33	26.16
ペー族	1.16	9.50	6.05	69.15	48.04	8.16	102.57	7.90	34.26	33.13
トウチャ族	1.20	9.25	5.43	70.43	33.15	8.19	106.44	8.74	34.92	39.72
ハニ族	1.69	13.92	6.37	59.04	139.09	6.44	108.25	5.97	17.36	21.15
カザフ族	1.78	15.61	4.68	67.39	24.91	8.69	104.49	3.90	23.09	21.67
タイ族	1.35	11.90	6.06	66.66	54.68	6.83	98.28	6.22	32.32	19.07
リー族	1.64	13.75	4.43	70.36	32.53	8.02	107.21	5.88	26.17	18.85
リス族	1.66	13.95	7.20	59.58	102.67	5.95	102.28	5.82	10.76	10.26
ワ族	1.42	12.60	7.31	56.80	117.47	6.31	101.49	5.53	18.44	21.92
ショオ族	1.09	8.19	5.75	72.41	26.23	7.95	117.75	8.24	32.78	50.02
高山族	0.29	2.49	2.49	70.43	37.04	10.21	102.47	6.31	60.34	56.42
ラフ族	1.42	12.36	7.54	56.38	141.63	5.99	103.93	5.42	16.26	12.15
スイ族	2.00	15.13	8.48	67.18	50.61	6.84	107.79	7.25	19.54	24.69
トンシャン族	2.09	17.44	4.26	67.48	89.47	5.69	104.43	6.06	16.69	11.95
ナシ族	0.90	7.76	6.24	67.60	55.30	8.43	99.37	9.18	36.10	32.47
チンポー族	2.24	20.36	7.23	60.56	74.96	6.93	93.21	4.48	19.72	17.74
キルギス族	1.52	12.85	4.74	67.80	44.56	8.15	102.80	5.01	19.03	18.70
トウー族	1.07	9.65	5.75	67.81	31.78	7.83	104.63	4.67	32.42	30.94
ダブル族	0.94	8.66	4.15	66.80	14.35	9.96	96.63	4.43	57.58	47.43
ムーラオ族	1.42	11.74	3.99	73.21	31.53	8.41	104.52	7.58	44.25	44.18
チャン族	1.20	10.30	4.97	72.26	14.83	7.97	102.29	7.19	30.87	27.05
プーラン族	1.66	13.76	5.63	60.63	89.33	6.33	104.83	5.08	15.48	14.48
サラール族	2.20	17.97	3.60	71.67	68.61	6.04	103.04	5.41	30.08	34.74
マオナン族	1.46	11.00	5.54	69.92	38.98	8.29	109.26	8.63	33.98	36.40
コーラオ族	1.40	10.08	5.66	63.52	47.34	7.69	110.71	7.58	35.53	38.19
シボ族	0.66	5.52	3.58	75.61	6.32	9.91	109.53	6.02	52.96	46.26
アチャン族	1.88	15.25	5.13	66.92	42.31	7.30	99.73	4.79	22.88	21.05
ブミ族	1.33	11.47	5.52	63.52	96.22	7.32	100.02	5.95	20.23	22.20
タジク族	1.68	14.17	4.58	70.18	35.58	7.94	104.63	4.79	18.89	11.21
ヌー族	1.40	11.48	8.65	62.06	100.36	6.86	101.56	6.40	16.48	19.89
ウズベク族	0.99	7.59	2.85	74.48	9.22	9.86	115.87	5.96	68.34	66.58
オロス族	0.51	4.55	3.70	75.11	11.70	11.10	89.83	8.13	84.59	81.55
エヴェンキ族	1.12	11.05	3.93	66.63	23.94	9.97	90.50	2.74	54.16	41.40
トーアン族	2.35	20.57	6.91	67.00	104.11	5.80	95.45	4.48	15.11	10.23
ボウナン族	2.40	19.58	4.22	71.94	67.67	6.75	99.58	5.84	19.35	22.64
ユーグ族	0.89	7.66	4.39	70.75	5.13	8.69	103.86	6.73	47.84	34.13
キン族	1.20	9.59	6.61	77.58	10.10	8.94	104.59	7.73	54.85	51.08
タタル族	0.70	5.63	4.78	69.53	0.00	10.59	114.60	6.86	59.56	45.21
トルン族	1.31	11.56	9.25	66.02	15.50	6.91	93.52	5.19	16.65	11.70

表2 (続き)

民族	①*	②	③	④**	⑤**	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
オロチオン族	0.34	3.46	4.04	66.98	8.40	10.45	87.18	2.61	58.81	69.71
ホジェン族	0.57	5.61	1.87	69.96	20.00	10.63	98.08	4.41	67.71	67.62
メンバ族	1.70	14.22	11.28	64.01	78.53	5.19	99.26	4.83	22.82	15.41
ロツバ族	3.31	27.37	12.04	68.99	51.28	5.63	95.96	4.05	14.12	12.37
ジノ一族	1.69	14.33	4.43	63.91	78.43	7.64	103.03	6.19	22.67	17.53

(注)①:合計特殊出生率(人),②:出生率(%),③:死亡率(%),④:寿命予測(歳),⑤:乳児死亡率(%),⑥:教育年数(年),

⑦:性別比,⑧:65歳以上人口比率(%),⑨:都市人口比率(%),⑩:非農業就業比率(%である。

(出所)\*:6次センサスからの近似計算,\*\*:5次センサスの数字,それ以外:6次センサスより筆者計算

大きくなればなるほどよいと判断されるもので、例えば平均寿命、平均教育年限、人口の都市化率が該当する。次に、負方向の指標、つまり数値が小さければ小さいほどよいと判断されるもので、例えば死亡率、乳児死亡率が該当する。第3に、中間的な指標、つまり数値がある一定の範囲内にあるのがよいと判断させるもので、例えば合計特殊出生率、性別比が該当する。これらのうち、負方向の指標と中間的な指標については正方向の指標にしなければならない。そこで負方向の指標は以下のように変換される。

$$x'_{ij} = -x_{ij} \quad (4)$$

ここで $x'_{ij}$ は正方向に処理した数字で、 $x_{ij}$ はもともとの数字である。中間的な指標の処理方法については基準値の $k$ を設定し、以下ようになる。

$$x'_{ij} = |x_{ij} - k| \quad (5)$$

## ②標準化の処理

すべての指標の評価単位が異なっているため標準化させる必要がある。方法は以下である。

$$X_{ij} = (x_{ij} - x_j) / S_j \quad (6)$$

ここで、 $x'_{ij}$ は各指標の標準化後の値で、 $x_{ij}$ は各指標の正方向後の値、 $x_j$ は各指標の平均値で、 $S_j$ は各指標の標準偏差である。

## (3) 分析結果

### ①各民族の人口現代化の推計結果

56の民族の人口現代化の指標データに対して主成分分析を行い、固有値の寄与率を得ることができた(表3)。上位4つの主成分の累積寄与率が85%を上回ったため、この4つの主成分を用いてその後の分析を行う。

表4は主成分分散の最大化により、因子負荷行列を計算したものである。第1主成分の中で、負荷量の絶対値の上位3指標は都市人口比率、平均教育年限および非農業就業比率である。都市人口比率と非農業就業比率は経済活動を反映し、平均教育年限も各民族の経済水準の向上と

表3 固有値と寄与率

	固有値	寄与率(%)	累積寄与率(%)
第1主成分	5.780	57.797	57.797
第2主成分	1.064	10.640	68.436
第3主成分	0.924	9.241	77.677
第4主成分	0.871	8.708	86.385

表4 因子負荷量行列

指標	第1主成分	第2主成分	第3主成分	第4主成分
合計特殊出生率	-0.803	0.048	0.403	0.084
出生率	0.826	0.064	-0.409	-0.090
死亡率	0.630	-0.376	0.146	0.274
平均寿命予測	0.719	0.219	0.517	0.300
乳児死亡率	0.802	-0.046	0.356	0.139
平均教育年限	0.932	-0.186	-0.039	0.012
人口性別比	-0.409	0.030	-0.392	0.814
老人人口比率	0.320	0.908	-0.034	0.032
都市人口比率	0.946	-0.054	-0.108	0.028
非農業就業比率	0.928	0.052	-0.106	-0.079

表5 各民族の人口現代化指数得点表

民族	第1主成分	第2主成分	第3主成分	第4主成分	総合得点	順位
漢族	5.6682	1.6330	-0.0532	0.3834	4.0265	10
モンゴル族	3.1315	-1.2476	-0.6432	1.1505	1.9887	18
回族	3.6772	0.5330	0.4398	1.0015	2.6739	15
チベット族	-3.6864	0.1936	-0.5352	0.6448	-2.4348	39
ウイグル族	-3.6448	-0.8638	1.0963	0.8745	-2.3396	37
ミャオ族	-1.7462	0.5201	0.2110	-0.4109	-1.1231	30
イ族	-4.5741	-0.1060	0.1488	-0.0970	-3.0673	45
チワン族	1.3222	1.4435	0.6685	0.3506	1.1693	22
プイ族	-3.3159	1.1873	-0.4331	0.0878	-2.1098	36
朝鮮族	10.7751	2.6221	-1.4857	1.0150	7.4756	2
満州族	6.0917	0.1153	0.5325	-0.0670	4.1402	9
トン族	-0.0269	1.4293	0.4778	-1.1290	0.0954	27
ヤオ族	-0.3026	0.3586	0.9084	-0.5289	-0.1144	28
ペー族	0.9470	1.0170	-0.5597	0.4935	0.7487	24
トゥチャ族	2.6223	1.3731	0.1107	-0.0600	1.9294	19
ハニ族	-6.9748	-0.1144	-0.9660	-1.5453	-4.9397	49
カザフ族	-1.9542	-1.6057	1.0831	0.4888	-1.3401	31
タイ族	-2.4349	0.1379	-0.4368	0.5770	-1.6007	34
リー族	-0.7629	-0.3941	1.2975	0.1248	-0.4076	29
リス族	-8.1314	0.0383	-1.0726	-0.2601	-5.5767	55
ワ族	-7.1550	-0.2388	-2.0728	-0.4688	-5.0856	51
シヨオ族	4.6897	1.2394	1.2429	-2.3246	3.1890	12
高山族	9.0013	-0.7636	-1.7611	0.7857	5.8192	5
ラフ族	-8.4230	-0.2354	-2.0912	-1.0863	-5.9977	56
スイ族	-4.3953	1.2274	0.9542	-0.7876	-2.7669	43
トンシャン族	-6.5128	-0.0747	1.0221	0.4498	-4.2120	47
ナシ族	1.5304	1.6459	-1.4358	0.6762	1.1412	23
チンポー族	-7.3462	-0.8804	0.4980	-0.8496	-5.0559	50
キルギス族	-2.0821	-0.8616	0.3115	0.6863	-1.3967	32
トゥー族	0.5391	-0.8388	-0.2851	0.0342	0.2303	26
ダフル族	5.1092	-1.6429	-0.7198	0.4631	3.1857	13

表5 (続き)

民族	第1主成分	第2主成分	第3主成分	第4主成分	総合得点	順位
ムーラオ族	3.1889	0.5515	0.7126	0.7850	2.3568	16
チャン族	1.5680	0.5320	0.3681	1.0713	1.2620	21
ブーラン族	-6.2662	-0.7072	-0.5156	-0.4466	-4.3798	48
サラル族	-3.2264	-0.4115	1.3683	1.0809	-1.9540	35
マオナン族	1.6928	1.2838	0.6722	-0.6033	1.3018	20
コーラオ族	0.5035	0.5314	-0.1065	-1.4133	0.2485	25
シボ族	8.4810	-0.5243	0.4459	-0.1817	5.6391	7
アチャン族	-3.8657	-0.8202	0.4885	1.1889	-2.5153	40
ブミ族	-3.9932	-0.2035	-1.3443	0.5820	-2.7819	44
タジク族	-2.3657	-0.9230	1.1724	0.6139	-1.5092	33
ヌー族	-5.8638	0.6619	-1.5400	-0.2735	-4.0341	46
ウズベク族	10.0128	-0.7734	1.2281	-1.3967	6.5945	3
オロス族	13.4301	0.4625	-0.3116	-0.4869	8.9601	1
エヴェンキ族	3.9880	-2.6524	0.2363	-0.7144	2.2948	17
トーアン族	-8.3483	-0.4717	0.7339	-0.0601	-5.5712	53
ボウナン族	-4.2563	-0.1612	1.1813	1.5819	-2.5818	41
ユーグ族	4.5890	-0.0420	-0.1687	0.6670	3.1143	14
キン族	5.5500	1.2615	0.7060	0.6622	4.0110	11
タタル族	8.5947	-0.2683	0.2169	-1.6912	5.5701	8
トールン族	-3.4485	0.1290	0.2034	-0.7527	-2.3455	38
オロチョン族	9.4715	-2.6969	-0.8347	-1.7238	5.7418	6
ホジェン族	9.3078	-1.9987	-1.1967	1.0689	5.9610	4
メンパ族	-8.2825	0.5891	-0.8077	-0.1847	-5.5740	54
ロッパ族	-8.2229	0.1897	0.8026	-0.4354	-5.4363	52
ジノー族	-3.8737	-0.3850	-0.1630	0.3900	-2.6173	42

密接な関係があると考えられるため、第1主成分を人口現代化における経済的要因と解釈することができる。第2主成分の中で、老人人口比率の負荷量が0.908と、明らかにその他の指標よりも高いため、第2主成分は人口現代化における年齢構造要因と解釈することができる。第3主成分の中で、平均寿命予測、出生率と合計特殊出生率の負荷量の絶対値が上位3つとなっており、これらの指標は栄養、健康、死亡および出生と関係があると考えられるため、第3主成分は人口現代化における人口成長要因と解釈することができる。第4主成分の中で、人口性別比の負荷量が明らかに他より高く、第4主成分は人口現代化における性別構造要因と解釈することができる。

ここでは式(1)を用いて、主成分の負荷係数と各指標の標準化されたデータを通じて各主成分の得点を計算した。同時に各主成分得点を利用して、各主成分の寄与率の累積寄与率からの比率をウェイトとして、式(2)より各民族の人口現代化指数の総合得点を計算した(表5)。

2010年における、人口現代化指数の総合得点の上位10民族はオロス族、朝鮮族、ウズベク族、ホジェン族、高山族、オロチョン族、シボ族、タタル族、満州族および漢族である。上位10民族に該当する民族は以下の特徴を持つ。第1に、出産率と死亡率が低い。合計特殊出生率は1.0前後で、出生率は10%より低く、10民族で一番高い漢族でも8.44%しかない。死亡率は6%以下である。第2に、比較的素質が高く、平均教育年限は8.76年の全国平均を上回る。なかでもオロス族が高く、11.1年である。第3に、人口の都市化と就業の非農業化率が高い。人口の都市化率は満州族を除いたすべてが50%を上回り、最高はオロス族の84.59%である。

就業の非農業化率は、満州族、シボ族とタタール族を除いた全てが50%を上回っている。

人口現代化指数の総合得点の下位10民族はトンシャン族、プーラン族、ハニ族、チンポー族、ワ族、ロツパ族、トーアン族、メンパ族、リス族とラフ族である。これらの民族については以下の特徴を持つ。第1に、比較的伝統的な人口成長モデルとなっており、出生率も死亡率も比較的高い。出産率の高いロツパ族の出生率は30%近くで、同時に死亡率も12.04%に達し、明らかに伝統型の人口成長モデルだと言える。第2に、素質が低い。寿命は比較的短く、ハニ族、ワ族、リス族とラフ族が10歳以上全国平均より短い。平均教育年限は全国平均より1.83～2.77年短い。第3に、人口の非農業化への移行が非常に停滞している。人口都市化率は15～23%の間にあり、49.68%の全国平均よりはるかに低い。就業の非農業化はさらに低く、中で一番高いワ族が21.92%、最低のトーアン族は10.23%である。

図1 クラスタ分析による各民族の樹形図

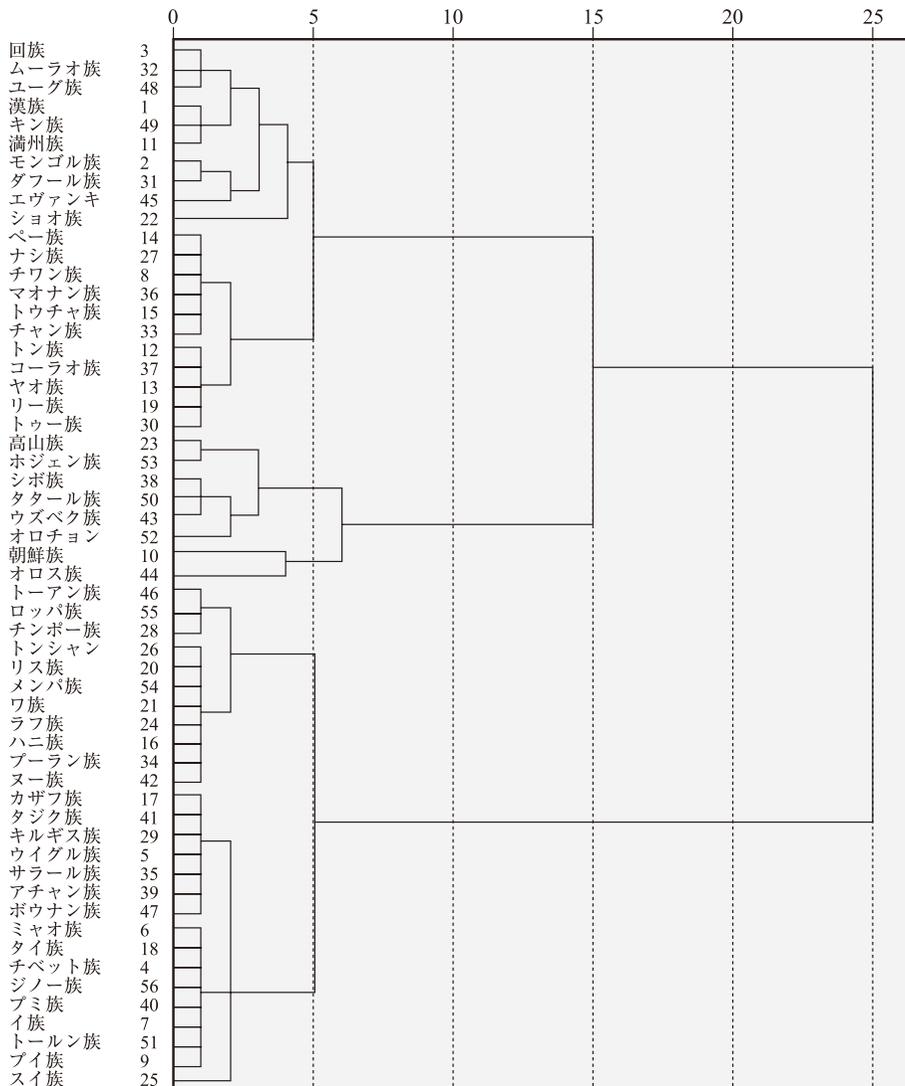


表6 各民族の人口発展状態の分類

種類	民族	特徴
第1類	漢族, キン族, 満州族, 回族, ムーラオ族, ユーグ族, モンゴル族, ダフル族, エヴェンキ族, ショオ族	出生レベルが低い。出生率と死亡率がやや低い。多くの民族で合計特殊出生率は1.5を下回る。出生率は8～12%の間。乳児死亡率は30%以下。人口の都市化率と非農業化率は50%程度で、全国平均を少し下回る。教育年数が中レベル。
第2類	ペー族, ナシ族, チワン族, マオナン族, トウチャ族, チャン族, ヤオ族, リー族, トン族, コーラオ族, トウー族	出生レベルは中。出生率と死亡率がやや低い。乳児死亡率が高く、30%以上。人口の都市化率と非農業化率は全国平均より低い。教育年数が約8年で全国平均少し下回る。
第3類	高山族, ホジェン族, シボ族, タタール族, ウズベク族, オロチョン族, 朝鮮族, オロス族	出生レベル、出生率と死亡率、乳児死亡率はきわめて低い。合計特殊出生率は1.3以下。出生率と死亡率は7.59%, 5.64%より低い。人口の都市化率は50%以上。教育年数もきわめて長い。
第4類	トーアン族, ロツバ族, チンポー族, トンシャン族, リス族, メンバ族, ワ族, ラフ族, ハニ族, プーラン族, ヌー族	出生レベルが高い。出生率と死亡率がきわめて高く、明らかに伝統型のモデル。寿命予測もきわめて短い。教育年数もきわめて短い。人口の都市化率と非農業化率がきわめて低い。
第5類	カザフ族, タジク族, キルギス族, ウイグル族, サラール族, アチャン族, ボウナン族, ミャオ族, タイ族, チベット族, ジノー族, プミ族, イ族, トールン族, プイ族, スイ族	出生レベルが比較的高い。出生率が比較的高く、12～20%の間にある。乳児死亡率が高く、50%を超える。寿命予測が短い。教育程度が低い。人口の都市化率と非農業化率が低い。

## ②各民族の人口現代化のクラスター分析結果

各民族の人口現代化指数における4つの主成分をもとにクラスター分析を行った。図1は各民族における相似関係と異質関係を樹形図で示したものである。そしてこの図より56の民族の発展状況を5つに分類することができる(表6)。

第1類は漢族, キン族, 満州族, 回族, ムーラオ族, ユーグ族, モンゴル族, ダフル族, エヴェンキ族, ショオ族の10の民族で、人口現代化の程度が2番目に高いグループである。第2類はペー族, ナシ族, チワン族, マオナン族, トウチャ族, チャン族, ヤオ族, リー族, トン族, コーラオ族, トウー族の11の民族で、人口現代化の程度が3番目に高いグループである。第3類は高山族, ホジェン族, シボ族, タタール族, ウズベク族, オロチョン族, 朝鮮族, オロス族の8の民族で、人口現代化の程度が最高のグループである。第4類はトーアン族, ロツバ族, チンポー族, トンシャン族, リス族, メンバ族, ワ族, ラフ族, ハニ族, プーラン族, ヌー族の11の民族で、人口現代化の程度が最低のグループである。第5類はカザフ族, タジク族, キルギス族, ウイグル族, サラール族, アチャン族, ボウナン族, ミャオ族, タイ族, チベット族, ジノー族, プミ族, イ族, トールン族, プイ族, スイ族の16の民族で、人口現代化の程度が4番目のグループである。

## 2. 民族人口の現代化：思考と啓発

本研究において、いずれの民族も人口の現代化に向かっていることが判明した。各民族の歴史と文化、社会の発展段階、経済構造と生産力、文化教育と知識体系などの方面において民族的な違いが存在し、ここから人口現代化の進展がそれぞれ異なるのだが、1つ言えることは、いかなる民族も全体的には現代化を拒否していないということである。人口現代化と経済社会

の現代化は同時に発展することも可能であるが、どちらか一方が遅れることもある。人口現代化は経済社会の現代化の触媒になりうるし、社会経済の建設と発展にマイナスの影響をもたらすかもしれない。つまり人口現代化は必ずしも社会経済の現代化に密接に関連するわけではなく、特に民族の発展の不均衡となるかもしれない。民族人口の問題が比較的複雑な中国において、民族の発展に内在する動機、外部条件およびそれらの変化について解釈していきたい。

## 2.1 内在する動機

各民族社会にはさまざまな違いがあるため、現代化においても、時代と背景が異なる形になることが多い。中には主導的な立場で現代化となる場合もあるが、より多くの場合は受動的に現代化の大きな流れに巻き込まれる。民族によっては異なる方法で現代化に反発し、民族の伝統的な文化や社会構造が現代化によって崩されていくことに抵抗する場合もある。

したがって、各民族の現代化の方法は多様である。一般的には、民族の現代化の動機はすべて外部からである。つまり、先進社会の現代化の潮流が外的圧力を形成し、各民族に現代化を選ぼう強制する。このような潮流はなかなか抵抗しにくく、受動的に現代化が進められるが、民族の発展に利益がある場合もあるため、このような外生の人口現代化が内的動機となって民族が自主的に選ぶ客観的な構造がある。例えば近代的な医療衛生技術は人口の健康の素質を増進し、寿命を高め、病気をなくす作用や効果をもたらすため、ほとんどの民族が受け入れを拒否することはなく、事実上、能動的にこの現代化転換を支持している。同様に、各民族の現代化の過程で発生する工業化、都市化および現代教育は現代型の生存方式として支持されている。

中国における、人口現代化のもう1つの特色は、国家の人口政策が各民族に対して指導的な効果をもたらしていることで、国家の公的権力が強制的に各民族の人口の現代化転換を進め、各民族の利益を配慮しながら各自の発展を支持している。また、各民族は国家政策の統一部署と共同で参画することにより、各民族の人口転換の外圧は内在化の構造を持つようになる。

外部の主流文化がもたらす社会の現代化は、各民族の社会発展、物質需要、消費生活など生存選択の一般的な価値を満足させる。しかし、すべての民族は自分たちの歴史の中で形成された物質生活と技術を持っており、どのような選択で自己の民族利益の現代化を体現していくのかは、民族間で異なる。ここでは、具体的に民族間の相違を調べてみる。

### (1) 出生要素

出生の現代化は「伝統型」の人口成長パターンから「現代型」パターンに転換する過程である(陳, 2003)。現代化の過程においては、まず死亡率が下落し、それから出生率が下落する。死亡率が下がることによって、合計特殊出生率が変化する。つまり、出生の質の向上は出生現代化の核心内容の1つである。同時に、合計特殊出生率の変化も出生現代化の核心内容の1つであり、合計特殊出生率が減少することにより、出生主体は出生の質の向上により関心を持つようになる。

現在、各少数民族の合計特殊出生率は基本的に低くなりつつあり、15～64歳の各民族の女性の出産人数から見ると、全国平均が1.35人、少数民族の中で最高のスイ族が1.82人、その次のチンポー族が1.81人で、それぞれ全国平均より0.47人、0.46人多く、最少のオロス族とホジェン族は1人に満たない0.94人である。結果的に、いくつか民族社会においては、有効に合計特

殊出生率を下げただけではなく、新生児の品質が極めて大きく向上してきている。出生の質を計測する重要な指標の中で、乳児死亡率は非常に広く使われている指標である。関連する調査研究と統計データによると、各民族の出生の質は常に向上しており、障害を持った新生児の出生率は年々下がっている。しかし、先進的な民族の人口現代化の過程と比べて、多くの民族の乳児死亡率、妊産婦死亡率は依然として比較的高く、人口現代化の進行は遅れているといえる。例えばメンバ族やジノー族の乳児死亡率は11.27%、11.95%に達し、少数民族の平均より5.71ポイント、6.39ポイント高く、各少数民族の人口発展に大きな違いがあることを裏付けている。

## (2) 人口の構造要因

人口の年齢構造を見ると、少数民族の年齢構造は漢族よりも若く、少数民族の0～14歳の人口の割合は22.55%で、漢族より5.48ポイント高く、65歳以上の人口の割合は漢族より2.87ポイント低い。15～64歳の生産年齢人口は漢族より3.61ポイント低く、これは少数民族が依然として高齢化の前段階であるといえ、民族社会における高齢者に対する若年層の負担が小さく、「人口ボーナス」つまり、民族社会が後世に利用できる経済の超過利益があることを意味する。

人口の性別構造を見ると、各民族の人口の性別構造は比較的大きな違いが存在する。多くの民族の性別比は基本的に正常値の範囲内であるが、一部の民族、例えばウズベク族、タタール族の性別比は115.87、114.60と高く、正常値を大きく上回っている。一方で、性別比が100以下の民族が12あり、その中のオロス族、オロチョン族はそれぞれ89.83、87.18しかなく、104の正常値よりかなり低い。性別比が極端に高いあるいは低いことは民族社会に対するマイナスの影響が発生する恐れがあり、出来るだけ是正しなければならない。

人口の職業構造を見ると、2010年における全国に従事する農業、林、放牧、漁業、水利業の生産人員の労働人口からの割合は48.33%で、漢族は46.4%、少数民族は67.81%に達し、漢族より20ポイント以上高い。その中でトアン族とリス族はそれぞれ89.69%に達する。商業、サービス業人員の比重も同様な違いがあり、全国と漢族はそれぞれ16.17%、17.19%、少数民族は9.82%で、約7ポイント低い。最低のタジク族とトールン族は1.88%、2.21%で、各民族の人口現代化の過程が比較的緩慢であると言える。

人口の文化教育の構造の現代化は人口現代化の重要な内容である。2010年における全国の各民族の6歳以上の文化程度について、全国、漢族、少数民族の各学歴の割合は(%)、未就学：5.00：4.71：9.34、小学：28.75：27.80：39.98、中学：41.70：42.27：30.79、高校：15.02：15.47：10.60、大学以上：9.52：9.74：9.29である。また、少数民族の教育年限は漢族より低く、いくつかの少数民族は5年に満たない。よって、少数民族の低学歴人口の比重が比較的高く、高校以上の学歴の比重がかなり低いということは、教養程度が比較的低いことを意味し、民族社会の現代化における人的資源、人材資源に対する切実な需要を満足させにくい。

## 2.2 外的条件

### (1) 地域の構造

改革開放以降の約30年間の経済社会の発展状況を見ると、東部沿海地区は経済発展の中心地帯であり、辺境の民族人口集中地区は現代化の周辺地区となり、発展は極めて大きな地理的

制限を受けている。国土の広い領域を占める民族地区は、その経済規模の全国経済の中で占める割合が年々下がる傾向が現れ、沿海地区との発展格差はむしろ拡大している。つまり、中国の国民経済の産業分布、空間分布と地区の発展計画の中で、どのように合理的に人口の配置に計画を立て、周辺の民族の人口発展の需要を推進するのかが、1つの重要な任務である。

## (2) 貧困問題

2010年における、上海市、江蘇省、浙江省の年末総人口はそれぞれ2,303万人、7,869万人、5,447万人、人口の自然成長率は1.98%、2.85%、4.73%、GRPは17,165.98億元、41,425.48億元、27,722.31億元、住民1人当たりの消費は32,271元、14,035元、18,097元である。同じ年の広西壮族自治区、雲南省と貴州省の年末総人口は4,610万人、3,479万人、4,602万人、人口の自然成長率は8.85%、6.54%、7.41%、GRPは9,569.85億元、7,224.18億元、4,602.16億元、住民1人当たりの消費は7,732元、6,724元、5,879元である（中国国家统计局，2011）。これらのデータより民族地区と沿海地区との経済発展の格差を知ることができる。もし民族地区の人口増加が過剰あるいは不適切に増加し、有限な資源が過剰な人口に使われ、低速に成長する経済効果も人口の新たな増加に消費させられるのであれば、これは民族地区の経済の発展速度をさらに遅らせ、民族地区の人口と環境の矛盾を引き起こし、生態の環境悪化を加速させるであろう。そのため、少数民族地区の経済発展と発達地区との格差の問題、民族地区の貧困問題は軽視できない。

民族地区の社会発展を悩ませる大きな問題は貧困である。ここでの貧困は経済的な貧困はもちろん、精神的な貧困などの2重の貧困である。経済的な貧困は人の精神に沈積し、長い貧困は生産への意欲を委縮させ、次第に人の精神の素質をも委縮させる。よって、貧困を解決しないで、民族地区の社会発展とは言えず、実際には貧困問題を解決すること自体が社会の発展であると言える。

## 2.3 変化の特徴

### (1) 民族の社会構造の変遷の同質性

中国の現代化社会構造の基本要求は、各民族間、各地域間で、平等、団結、互助、友愛による社会主義の新しい関係を形成することである。しかしながら、異なる民族、異なる地域でこのような新しい社会構造を作り上げることは容易ではない。

まず、各民族が様々な変革の後に天地を覆すような変化を経験し、現代化に邁進していることを実感しなければならない。しかし、各民族、各地域内の状況は錯綜・複雑で、一部の観念や慣習が発展を妨げている。よって、「永遠に変わらない」とされている社会構造を徐々に変えていかなければならない。

次に、中国の少数民族の大部分の人口は辺境地域に生活しており、これに加えて交通、通信が遅れ、地理も分割し、外部の世界との頻繁な交流と一定の社会移動が不足している。そのため、少数民族地区の中の大多数のコミュニティにおいて、単一民族が孤島式に居住し、同族性や同質性が非常に強く、地域的な隔離を強化し、交流や発展の障害となっている。

最後に、民族地区の経済構造の調整や適合は比較的緩慢である。社会経済構造と国民経済構造が合理的かどうかは、生産水準と社会発展の程度に極めて大きく影響する。少数民族地区は

過去と比較して、経済構造はすでに明らかな変化が発生し、調整や適合は明らかに加速しているが、全国と比較すると、速度は依然として遅い。各民族を業界別、職業別に分けても少数民族地区が依然として伝統的農業が主導的地位を占めており、その上、女性の労働参加率も漢族に比べて大きく遅れている。その他に、先進的な生産力と大中企業の大部分が少数の大中都市に集中し、都市経済の発展による地区へのスピルオーバー効果は、特に比較的後れている民族地区などに対して形成しにくい。今後の発展において、民族地区へのスピルオーバー効果が得られる計画を立てる必要がある。

## (2) 民族文化と市場経済の衝突

民族文化はイデオロギーとして、社会政治や経済に反映される。民族文化は一方で現代化建設の基本的な素材となり、もう一方で各民族の現代化の過程に直接影響する。

まず、漢民族を含めた中国の各民族の伝統文化はそれぞれ自身の特徴を持つ。各民族の伝統的な生活において、社会的分業は発達しておらず、商品生産が有限で、市場規模も小さく、発達していない。しかも、多くの民族の伝統文化において、多くの非商品生産あるいは前市場経済をもって、市場経済に反対する価値観を基本的な特徴としている。民族文化の価値観と市場経済の発展が矛盾する時、これらの民族の伝統文化は恐らくその現代化の道筋に対して大きな障害をもたらすであろう。

次に、いくつかの少数民族の行為規範（習慣）は現行の法律法規と衝突する。よく知られている要因として、少数民族がいまだ保守的な観念の影響を深く受け入れ、長期にわたり単一的な農業の生産労働に従事し、商品経済の基礎はとりわけ薄弱である。同時に不法な商人に騙されたり、騙されるのを恐れて封鎖する方法をとったり、あるいは商品経済活動に参加しなかったりと、これらの習わしや観念は民族地区の商品経済発展をひどく妨げている。そのため、現代化を進めていく過程で、民族地区の固有の伝統が経済発展に不利となる観念を変え、絶えず変化する中で民衆の商品意識と発展能力を高めていかなければならない。

最後に、民族文化は社会経済の基礎の反映で、その発生、伝承および変遷は一定の社会経済の基礎より決定され、いったん相対的な独立性と安定性を形成すれば、一定の社会経済の基礎に対して巨大な反作用を生み出す。よって、民族文化は生存の社会経済の基礎のために極力維持されなければならない。また、生存の社会経済の基礎として維持できなくなっても、社会のイデオロギーとして保留し、社会生活の各方面に引き続き影響を及ぼさなければならない。民族文化の保護の最適な方法を追求した上で、各民族文化の現代化を実現しなければならない。

## (3) 貧困地域と発展

貧困を抜け出すことは、依然として中国の経済の急速な発展を維持する重要な任務である。まず、地域経済の貧困は分散、単一で不均衡な経済構造を持ち、自給自足経済の根が深いため、その経済関係は非常に強い密閉性がある。すべての貧困地区の経済関係の閉鎖状態は民族自身では打ち破りにくく、その上伝統的な地域文化の影響があり、このような閉鎖性に対しては強大な外来の文化と推力の助けを借りて経済の封鎖を突破させなければならない。

また、創造性と革新意識の不足が思考の限界の結果であり、すでに新しい環境に入り、外部

の新しい物事、新しい現象を喜んで受け入れる態度の人に対しても、その価値観が伝統の価値観の束縛を受ける。そのため、思想を変え、貧困の経済地域の制約を変え、貧しい地域の経済文化の現状の中から新しい発展モデルを総括して探求していくべきである。

### 3. 今後の展開

少数民族の人口現代化は1つの歴史、地理、社会、経済および民族自身などが多くの要因が制約する複雑な過程を持つ（王，2003）。このため、人口現代化の実現においては、相応の指標を確定させ、できるだけ早く指標の実現に向けた相応の措置をとらなければならない（表7）。

#### 3.1 積極的な都市化の政策を実施し、人口を合理的に移動させる

都市化のレベルが経済、社会の発展、特に産業構造の調整と人口の移動状況を決定する。世界で地域や人口を閉鎖して先進国あるいは発達民族に発展してきた国家あるいは民族は1つもない。積極的に少数民族地区の都市化を進めるための政策を実施すべきで、長期的には都市と農村が分離された2重の管理体制を打ち破り、戸籍制度と土地制度の改革を加速させる。

#### 3.2 第3次産業を発展させ、経済発展を促進させる

第3次産業は都市の就業人口をひきつける主要な方法である。民族地区は商業貿易・流通、飲食サービス、交通・郵便・電信、金融保険を継続的に発展させると同時に、積極的に観光・レジャー、文化・マスコミ、仲介サービス、コミュニティサービスなどの業界を育成すべきである。第3次産業を発展させることは、都市化の発展にもつながり、経済の持続的発展の基礎ともなる。

#### 3.3 その土地に適した民族の教育体系を造り、人の素質を高める

まず、義務教育が本当に実行されるべきで、民族地区の適齢の子供は教育を受ける権利を持つだけでなく、教育を受ける均等な機会と能力を持つ。全社会は民族地区の基礎教育を重視す

表7 少数民族人口現代化評価指標

内容	指標名称	評価基準
少数民族 人口出産現代化	合計特殊出生率	適度な人口規模のもとで、出生率を維持する。
	乳児死亡率	先進国の平均を目指す。
少数民族 人口素質現代化	出生寿命予測	先進国の平均を目指す。
	15歳以上の平均教育年数	先進国の平均を目指す。
少数民族 人口構造現代化	全少数民族人口における都市部 少数民族人口の比率	長期目標として全国平均を目指す。
	全少数民族人口における非農業就業の 少数民族人口の比率	長期目標として全国平均を目指す。
少数民族 人口経済現代化	福祉、1人当たりのGDP	豊かになり、2020年には全面的に落ち着いた状態を目指す。

る必要があり、全面的に民族人口の基本的な素質を高めなければならない。

次に、近代的な科学技術などの手段を運用して民族教育の発展を加速させ、民族人口の総合的な資質を高めなければならない。近代的な情報技術を利用し、放送、テレビ、インターネットのなどマスメディアの手段を通じて、多様な教育の機会を提供しなければならない。民族地区の遠隔教育の体系の建設は正規の教育の有効的な補充の手段として、貧困の僻地に最大限度の近代的な教育を享受させ、専門的な人材の育成を加速させなければならない。

最後に、引き続き重点的に教師の育成と人材の引き留めを強化しなければならない。民族地区の教師の欠乏は大きな問題の1つである。関連政策と法律法規を制定し、保障と優遇措置を明確に規定し、人々が安心して民族地区の仕事ができるようにしなければならない。教師たちにはより高く質を上げ、民族地区の人の素質をできるだけ早く高めなければならない。

### 3.4 社会の価値体系を再構築し、文化環境を更新させる

人口の現代化と社会主義の現代化が実現することは、文化変革の起点になるだけではなく、社会全体の改革と発展の究極の目標でもある。貧困地域にとって、人の文化素質を全面的に高めることによって、現代化へ自ら改造し、自ら整え、自ら越えることを実現し、貧困地区の文化改革を実現させることができる。貧困地区の現状から出発し、人の主体意識、開放意識や創造意識を育成することは新しい価値指向を築くのに重要な任務となっており、新しい文化の形態の実現を促進する。社会の価値体系の再構築は文化環境を更新し、古い社会の価値観を改革し、市場経済の建設の中で人の心理状態を調整し、伝統の観念を変え、社会変革と市場経済の新しい文化に適応したものを創造する。民族地区の経済が持続的に発展するのに伴い、貧困地区の経済繁栄が文化環境の更新と現代化が到来とともに起こらなければならない。

### 3.5 民族地区の公共サービスの均等化を促進し、衛生サービスの均等化を実現させる

民族地区の公共衛生サービスの均等化を実現することは民族地区の経済発展を促進し、社会の安定を守り、1人当たりの寿命と人の素質の重要な有機構成部分を高め、それは直接民族地区の広大な人民群衆の身体健康と生命の安全に関係し、労働者の身体素質と健康状況に関係し、民族地区の社会の安定と経済発展の大局に関係する。これにより民族地区の医療衛生のインフラ建設を強化し、民族地区の基本的な医療保証制度を構築させなければならない。同時に、民族地区の医療衛生事業を強力に発展させ、全面的に民族地区の「県・郷」2段階の医療機関への改造建設任務を完成させ、新しい農村合作の医療のモデル地点を民族地区の各縣市に作り、できるだけ早く衛生サービスの均等化を実現し人の素質を高めなければならない。

## 参考文献（出現順）

- 陳友華（2003）「人口現代化評価指標体系研究」、『中国人口科学』2003（3），pp. 64～70  
中国国家统计局（2011）『2011中国統計年鑑』中国統計出版社  
王朝科（2003）「民族人口現代化初探」、『西藏大学学报』2003（2），pp. 1～6